

院長の独り言

(2015年10月22日執筆)

国は、いわゆる「団塊の世代」の方々が全て75歳以上となり、高齢化が一段と進行する2025年（私がちょうど75歳になる年です）を見据え「医療・介護サービスの提供体制の改革」を進めています。これを受けて北海道でも、2025年に向けて、第二次医療圏（この地域では日高振興局管内全域）を単位とする「構想区域」ごとに、急性期から回復期、在宅医療に至るまで、それぞれの患者の状態にあった医療サービスを提供できる、バランスのとれた医療提供体制の構築を目指し「地域医療構想」を策定しています。

日高振興局管内ではどうするかという会議の第一回が8月25日に開かれました。それぞれの町の町長、主だった医療機関の院長らが出席しましたが、今回の会議では医療・介護の将来を見据えた具体的な意見はなかったように感じます。現状を変え、新しい体制を構築することはそれぞれの町や医療機関個々の事情もあり、一筋縄ではいかないかもしれませんが、日高管内の人口の減少や医療費削減の圧力もあり、決して避けては通れない課題です。

そのあとに、新冠町から町立国保診療所を来年から入院ベッドをなくして無床にするという方針が発表されました。無床診療所にするということは、新冠町が午後5時頃から翌朝9時頃まで無医村になることを意味しますが、静仁会静内病院は今後も変わらず24時間365日診療を行ってまいります。困った時には

いつでも当院を受診下さい。この後も、大きな財政負担に耐えきれなくなって、公的医療機関の病床が廃止されたり、閉鎖されたりする可能性があります。静仁会静内病院は、日高振興局管内の最後の砦として地域の皆様の健康を守る使命を果たして参ります。

